

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: アセトアルデヒド (試薬1級)

製品番号(SDS NO): D000010-1

供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 1

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

急性毒性(経皮): 区分 3

急性毒性(吸入): 区分 4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2A

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 2

発がん性: 区分 1B

生殖毒性: 区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1(中枢神経系、呼吸器)

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(麻醉作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1(呼吸器)

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 3

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

極めて引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有毒

吸入すると有害(気体、蒸気、粉じん及びミスト)

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
臓器の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害
水生生物に有害

注意書き**安全対策**

使用前に取扱い説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
環境への放出を避けること。
熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
保護手袋又は保護衣を着用すること。
保護手袋を着用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋及び保護面を着用すること。
保護眼鏡/保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当てを受けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
口をすすぐこと。
飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:

化学物質

化学的特定名: アセトアルデヒド

慣用名、別名: エタナール、エチルアルデヒド、酢酸アルデヒド

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
アセトアルデヒド	80.0 \leq	75-07-0	2-485	C ₂ H ₄ O

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

アセトアルデヒド

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

アセトアルデヒド

化管法「指定化学物質」該当成分

アセトアルデヒド

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

吸入: 咳。

皮膚: 発赤、痛み。

眼: 発赤、痛み。

経口摂取: 下痢、めまい、吐き気、嘔吐。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

蒸気/空気の混合気体は爆発性である。

蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある。

遠距離引火の可能性はある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火を行う者の保護

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

下水、排水中に流してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏れた液やこぼれた液を密閉式の容器に出来る限り集める。

残留液を砂または不活性吸収剤に吸収させて、安全は場所に移す。

おがくず他可燃性吸収剤に吸収させてはならない。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

日本産衛学会(1990) (最大値) 50ppm; 90mg/m³

ACGIH(2013) STEL: 上限値 25ppm (眼および上気道刺激)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学用品用ゴーグルを着用する。

衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状：気体または液体

色：無色

臭い：刺激臭

pH：5 (1%水溶液、20°C)

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：20.2°C

融点/凝固点：-123°C

分解温度：400°C以上

引火点：(アセトアルデヒド)(C.C.) -38°C

自然発火温度：185°C

爆発特性：引火又は爆発範囲

下限：4.0 vol %

上限：60 vol %

蒸気圧：101kPa (20°C)

相対蒸気密度(空気=1)：1.5

20°Cでの蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)：1.52

比重/密度：0.78g/cm³

溶解度

水に対する溶解度：混和する

溶媒に対する溶解度：エタノール、ジエチルエーテルに極めて溶けやすい。

n-オクタノール/水分配係数：log Pow0.63

10. 安定性及び反応性

反応性

痕跡量の金属(鉄)が存在すると、酸、アルカリ性水酸化物の影響下で重合することがあり、火災または爆発の危険を伴う。

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

空気と接触すると爆発性過酸化物を生成することがある。

強力な還元剤で、酸化剤、強酸、ハロゲン、アミンと激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

火源、熱、混触危険物質との接触。

混触危険物質

強酸、酸化性物質、金属(鉄)、ハロゲン、アミン

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、660 mg/kg (NITE初期リスク評価書(2007)、EHC 167(1995))、1,930 mg/kg (NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、DFGOT vol. 3(1992)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1990))に基づき、区分4とした。

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

ラットのLD50値として、640 mg/kg (NITE初期リスク評価書(2007))との報告に基づき、区分3とした。優先度の高い新たな情報源に基づき、区分を見直した。

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

ラットのLC50値(4時間)として、13,300 ppmとの報告(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1990)、IARC 36(1985))、及びLC50値(0.5時間)として、20,200 ppm(4時間換算値: 7,142 ppm)との報告(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、DFGOT vol. 3(1992))に基づき、区分4とした。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度(1,000,000 ppm)より低いため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質500 mgの適用により軽度の刺激性がみられたとの報告(ACGIH(7th, 2001))より区分外(国連分類基準の区分3)とした。なお、HSDB(Access on August 20 15)には、腐食性を有するとの記載があるが、具体的な情報ではないためList1の情報を優先した。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質40 mgの適用した結果、強度の刺激性が見られたとの報告(ACGIH(7th, 2001))から区分2Aとした。なお、具体的な情報ではないが、本物質の液体や蒸気は眼に対して腐食性を有するとの記載がある(PATY(6th, 2012)、環境省リスク評価第1巻(2002))。本物質はEU CLP分類において「Eye. Irrit. 2 H319」に分類されている(ECHA CL Inventory(Access on September 2015))。

感作性

皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

ヒトに対するパッチテスト2件の報告で、感作性がみられたとの報告がある (IUCLID (2000))。また、繊維工業において、接触性アレルギーの報告 (FROSCHE, TEXTBOOK OF CONTACT DERMATITIS) や、本物質は接触性アレルギーであるとの記載がある (PATTY (6th, 2012))。以上より区分1とした。

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

In vivoでは、腹腔内投与によるマウスの精子細胞の小核試験で陰性、腹腔内投与によるラット骨髄細胞、末梢血赤血球、マウス骨髄細胞の小核試験で陽性、妊娠13日目における経羊膜投与によるラット胚細胞の染色体異常試験、ラットの染色体異常試験(詳細不明)で陽性、腹腔内投与によるマウス骨髄細胞及びチャイニーズハムスター骨髄細胞の姉妹染色分体交換試験で陽性の報告がある(NITE初期リスク評価書 (2007)、IARC 71 (1999)、CEPA (2000)、ACGIH (7th, 2001))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陰性、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、hprt遺伝子突然変異試験、小核試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陽性である (NITE初期リスク評価書 (2007)、IARC 71 (1999)、CEPA (2000))。以上より、in vivo体細胞変異原性試験及びin vivo体細胞遺伝毒性試験で陽性、in vivo生殖細胞変異原性試験で陰性、in vivo生殖細胞遺伝毒性試験データなし、in vitro変異原性試験で陽性結果があることから、区分2とした。

[厚労省局長通達]

(アセトアルデヒド)

発がん性

[日本公表根拠データ]

本物質はエタノールの代謝物であり、アルコール飲料の摂取に関連したアセトアルデヒドについては、ヒトで食道がんなどを生じる十分な証拠があるとして、IARCはグループ1に分類した (IARC 100E (2012))。アルコール飲料摂取による影響を除外した本物質に対する発がん性分類はACGIHがA3 (ACGIH (7th, 2001))、EPAがB2 (IRIS Summary (1991))、NTPがR (NTP RoC 6th (1991))とされている。IARCも1999年の本物質の発がん性分類では、本物質の発がん性に関して、実験動物ではラットを用いた吸入経路での発がん性試験において、1,500 ppm以上の用量で、鼻腔粘膜の腫瘍(扁平上皮がん、腺がん)の増加がみられた他、ハムスターの吸入ばく露試験でも喉頭がんが認められたことから、実験動物では発がん性の確かな証拠があるが、ヒトでの証拠は不十分であるとして、「グループ2B」とされていた (IARC 71 (1999))。以上より、実験動物での発がん性が確実であり、ヒトではアルコール飲料摂取以外のばく露による発がん性の証拠はないが、実験動物での吸入経路による鼻腔粘膜、又は喉頭における発がんはヒトでも吸入経路での職業ばく露等により、生じる可能性はあると考えられる。よって、本項は区分1Bとした。なお、EU CLP分類では本物質、エタノールともに Carc. 2 に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on August 2015))。

IARC-Gr.1 : ヒトに対して発がん性がある(アルコール飲料と共に摂取した場合)

IARC-Gr.2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

ACGIH-A2(2013) : ヒト発がん性の疑いがある

日本産衛学会-2B : 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質

EU-発がん性カテゴリ2; ヒトに対する発がん性が疑われる物質

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

ヒトでの生殖毒性影響に関して、本物質の直接的なばく露による報告はない。実験動物では、妊娠マウスに本物質を妊娠7~9日に静脈内注射(約31、62 mg/kg/day)した催奇形性試験において、胎児に用量依存的な吸収胚の増加、胎児重量の減少、外脳症、神経管閉鎖障害など奇形頻度の増加がみられた (NITE初期リスク評価 (2007)、PATTY (6th, 2012))との記述、妊娠ラットの妊娠10~12日に腹腔内注射した試験では、吸収胚の増加、胎児重量の減少、頭腎長及び尾長の減少、奇形(指の異常、頭蓋・顔面の奇形)の増加がみられたとの記述 (ACGIH (7th, 2001))、妊娠ラットに経口投与した試験でも胎児に骨格奇形がみられた (NITE初期リスク評価 (2007))との記述、さらにラット、及びマウスに本物質を in vivo、及びin vitro で処置した結果、胎児に奇形誘発がみられた (IARC 71 (1999))との記述などから、妊娠動物の器官形成期への本物質ばく露が奇形を誘発することは確実であると考えられる。なお、最近の報告として、胎盤に分化するとされている栄養膜細胞 (trophoblast) の市販細胞系を用いた in vitro培養実験系にエタノール、アセトアルデヒドを添加した実験において、いずれの添加群でも細胞増殖は抑制され、アルデヒド添加群ではアポトーシスも観察された。著者らは妊婦ではアルコール、アセトアルデヒドのいずれのばく露でも胎盤の成長を低下させることにより、胎児性アルコール障害の発症原因となり得るとの仮説を提唱している (Lui, S. et al., PLoS One, 2014 Feb 4;9 (2))

: e87328 (2014)。以上、本物質は実験動物での奇形誘発性が明らかである。ヒトでの催奇形性については不明であるが、ヒトの胎児性アルコール障害の原因物質と疑われ、上記のごとく調査研究が行われている。よって、本項は区分1Bとした。

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

本物質は気道刺激性がある(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第1巻(2002)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1990)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、IARC 36(1985)、PATTY(6th, 2012)、CEPA(2000)、DFGOT vol. 3(1992))。ヒトの吸入による中毒事例では、頭痛、咳、気管支炎、肺水腫、昏睡、中枢神経系抑制(麻酔作用)、心拍数及び呼吸数の減少、運動麻痺、死亡、経皮ばく露において、咳き、肺水腫、肺壊死、中枢神経系抑制、高用量で痙攣、死亡がみられている(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第1巻(2002)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1990)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、IARC 36(1985)、PATTY(6th, 2012)、CEPA(2000)、DFGOT vol. 3(1992))。実験動物では、ラットの経口(区分2相当用量)、経皮(区分1相当用量)で、中枢神経系抑制、呼吸数減少、心拍数増加、血圧上昇、肺水腫、蛋白尿、吸入(区分1相当用量)で、麻酔作用、意識混濁、気管支炎、肺水腫の報告がある(NITE初期リスク評価書(2007)、環境省リスク評価第1巻(2002)、産衛学会許容濃度の提案理由書(1990)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995)、IARC 36(1985)、CEPA(2000))。以上より、本物質は主として、気道刺激性、中枢神経系影響、麻酔作用、呼吸器への影響があり、区分1(中枢神経系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

[区分1]データ参照

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

ヒトについては、「紅斑、咳、肺水腫、麻酔作用」(ACGIH(7th, 2001))、「頭痛、麻酔作用、麻痺、呼吸数の減少、呼吸器への刺激性、気管支炎、肺水腫」(CEPA(2000))等の記載があるが、いずれも単回ばく露の影響に関する記述であった。実験動物では、ラットを用いた4週間吸入毒性試験において、区分1の範囲である400 ppm(ガイダンス値換算:0.16 mg/L)で鼻粘膜の変性(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、EHC 167(1995))、ラットを用いた5週間吸入毒性試験において、区分1の範囲である243 ppm(ガイダンス換算値:0.16 mg/L)で嗅上皮の過形成、鼻粘膜の炎症、肺機能検査における残気量、機能的残気量の増加、遠位気道の損傷(NITE初期リスク評価書(2007)、EHC 167(1995))がみられた。このほか、ラットを用いた52週間吸入毒性試験では、区分2を超える範囲である750 ppm(1.37 mg/L)以上で嗅上皮の変性、嗅上皮の呼吸上皮による置換がみられ、また、ハムスターを用いた90日間吸入毒性試験において 区分2の範囲である1,340 ppm(0.435 mg/L)で気管上皮の重層化がみられている(IRIS(1998)、ACGIH(7th, 2001))。以上より、区分1(呼吸器)とした。

吸引性呼吸器有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に有害

水生毒性(急性)成分データ

[日本公表根拠データ]

藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)72時間ErC50 = 26 mg/L(環境省生態影響試験, 2008)であることから、区分3とした。

水生毒性(長期間)成分データ

[日本公表根拠データ]

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(良分解性:28日でのBOD分解度=80%、TOC分解度=93%、GC分解度=100%(通産省公報, 1980))、藻類(*Pseudokirchneriella subcapitata*)の72時間NOEC

= 1.9 mg/L (環境省生態影響試験, 2008)であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、甲殻類(ミシドシュリンプ)の96時間LC50 = 27.4 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2007)であるが、急速分解性があり、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow = -0.34 (PHYSPROP Database, 2008))ことから、区分外となる。以上から、区分外とした。

水溶解度

混和する (ICSC, 2003)

残留性・分解性

急速分解性があり (良分解性: BOD分解度=80%/28 days; TOC分解度=93%/28 days; GC分解度=100%/28 days (通産省公報, 1980))

生体蓄積性

log Kow = -0.34 (PHYSPROP Database, 2008)

土壤中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

13. 廃棄上の注意**廃棄物の処理方法**

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

14. 輸送上の注意**国連番号、国連分類**

番号: 1089

品名(国連輸送名):

アセトアルデヒド

国連分類(輸送における危険有害性クラス): 3

容器等級: I

指針番号: 129

特別規定番号: A1

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

アセトアルデヒド

名称通知危険/有害物

アセトアルデヒド

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第15条関係)

危険物・引火性の物 (引火点 < -30°C)

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

アセトアルデヒド80%

消防法

第4類 引火性液体特殊引火物 危険等級 I

高压ガス保安法

可燃性ガス(一般高压ガス保安規則第2条1): 爆発限界下限 <10% or 爆発限界上下限差 =>20%

化審法

優先評価化学物質

アセトアルデヒド

悪臭防止法

特定悪臭物質(施行令第1条) アセトアルデヒド

大気汚染防止法

揮発性有機化合物(VOC)

アセトアルデヒド

有害大気汚染物質/優先取組(中環審第9次答申)

アセトアルデヒド

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

積載禁止

適用法規情報

特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法): 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)

港則法: その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)

道路法: 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)

輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」

輸出貿易管理令別表第1の16の項

輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2016 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2015 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。